

「イエスの祈りゆえに、わたしたちは孤独ではない」

(ヨハネによる福音書 17:20-26)

教会の暦は昇天日を経て復活節最後の主日を迎えました。主イエスのご受難の後、絶望のなかにいた弟子たちの真中にあらわれてくださいました。けれども主イエスは、再び弟子たちのもとを離れ、天に戻られます。主イエスの昇天とともに地上での弟子たちの働きが始まります。その弟子たちのために、主イエスのご自分の昇天後も弟子たちのことを守ってくださるように神に祈り、とりなします。今日の福音はその主イエスによるとりなしの祈りです。主イエスのとりなしによって降される神の助けがあるから、弟子たちは主イエスの働きを受け継ぎ、担っていくことができます。

主イエスの働きを受け継ぐ。それは、主イエスと同じように神から離れさせようとするこの世のあらゆる力からの挑戦を受ける道です。それは主イエスがそうであったように、この世においては孤独の道です。主イエスはその孤独に最後まで耐えられましたが、わたしたちはその孤独に耐えることはできません。しかし、主イエスはわたしたちを孤独にはしておきません。主イエスは、「父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におらせてください。」と祈ってくださるのです。この祈りに神が応えられたから、昇天後も聖霊降臨によって、そしてみ言葉を通してわたしたちは主イエスと共にいることができます。

とりなし主なるイエス・キリストは、「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。…わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。」と祈られ、いつでもわたしたちと一つであること、そしてご自身を通してわたしたちが神と一つとされることを願ってくださいます。それゆえ、わたしたちは孤独ではありえません。

ご自分の命をささげて神に従った主イエスの祈りを、神は必ず聴いてくださいます。そのことを証しているのが、聖霊降臨の出来事に他なりません。主イエスのとりなしの祈りは、聖霊が降されること成就します。いよいよ来週、わたしたちはそのことを祝う聖霊降臨日を迎えます。